

平成25年1月29日

文化庁 eBooks プロジェクトについて

文化庁は、「電子書籍の流通と利用の円滑化に関する実証実験」の一環として、電子書籍の配信実験「文化庁 eBooks プロジェクト」を実施いたしますので、お知らせいたします。

1. 事業概要

本プロジェクトは、「電子書籍の流通と利用の円滑化に関する実証実験」の実施に伴い、設置されたワーキンググループ（主査：福井健策弁護士）のもと、国立国会図書館の保有するデジタル・アーカイブ（デジタル化資料）の中から選定した資料を著作権処理などの手続きを経て、電子書籍の制作から配信までを実験的に行うことにより、課題や有効策を明らかにすることを目的とした事業です（別紙参照）。なお、実験の結果は、将来、民間事業者や公的機関などが既存のデジタル化資料をもとに、新たに電子書籍化して配信する場合の参考となるようにとりまとめる予定です。

2. 配信対象資料

別添資料のとおり

3. 配信期間

平成25年2月1日（金）～ 3月3日（日）

4. 受託者等

受託事業者：株式会社野村総合研究所

配信協力：株式会社紀伊國屋書店

※詳細については、文化庁 eBooks プロジェクト事務局までお問い合わせください。

【問い合わせ先等】

文化庁 eBooks プロジェクト事務局（株野村総合研究所）

電話：03-5533-2111（代表） e-mail:rights-info@nri.co.jp

紀伊國屋書店 BookWeb サイト内特設サイト

<http://bookweb.kinokuniya.co.jp/>

<担当> 文化庁長官官房著作権課
著作物流通推進室

室長 山中 弘美（内線 3066）

室長補佐 鈴木 修二（内線 2844）

管理係長 内村 太一（内線 2847）

電話：03-5253-4111（代表）

〔参考〕 「電子書籍の流通と利用の円滑化に関する実証実験」について

- 近年、電子書籍を巡る情勢が著しく進展する中で、国立国会図書館の保有するデジタル・アーカイブ（デジタル化資料）の活用の在り方が重要になっています。平成23年12月にとりまとめられた「電子書籍の流通と利用の円滑化に関する検討会議」の報告書においては、「（国立国会図書館の）デジタル化資料を活用した新たなビジネスモデルの開発が必要」であり、「事業化に意欲のある関係者による有償配信サービスの限定的、実験的な事業の実施なども検討することが必要」であるとされています。さらに、平成24年5月に策定された知的財産推進計画2012においても、コンテンツのアーカイブ化とその活用推進の観点から、同旨の施策の実施が求められています。
- このため、文化庁は、国立国会図書館のデジタル化資料を利用した電子書籍制作・流通について、権利者の検索や著作権処理などの契約に係る擬似的な権利処理等を行う簡易な実証実験を実施するとともに、その契約に係るガイドライン等を作成し、新たなビジネスモデルの可能性を検証することにより、中小規模の出版者を含む各事業者による電子書籍の流通と利用促進に資することを期待し、本実証実験を実施することとしました。

【文化庁 eBooks プロジェクト配信対象資料の選定基準について】

本プロジェクトでは、福井健策弁護士（骨董通り法律事務所）を主査として、学識経験者、出版事業者、電子書籍制作事業者及び配信事業者から構成されるワーキンググループ（事務局：文化庁及び㈱野村総合研究所）により、選定された13作品を配信します。

13作品の配信対象資料については、国立国会図書館のデジタル化資料のアクセス数や館内閲覧等の実績に基づくとともに、各資料の特徴とバランスに鑑み、実証実験に適した8作品をもとに、文化庁で実施する〈現代日本文学の翻訳・普及事業〉の翻訳対象作品5作品を加えて、選定しました（詳細については別添資料参照）。

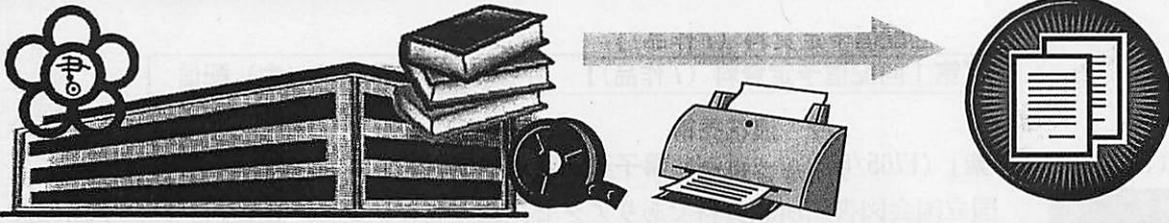
なお、収録されている内容は、作品の執筆年代及び執筆された状況などを考慮し、国立国会図書館所蔵のデジタル化資料をもとに、出版当時のままで掲載しています。

文化庁eBooksプロジェクトの概要

別紙

① 対象資料の選定

国立国会図書館のデジタル化済み資料から選定。



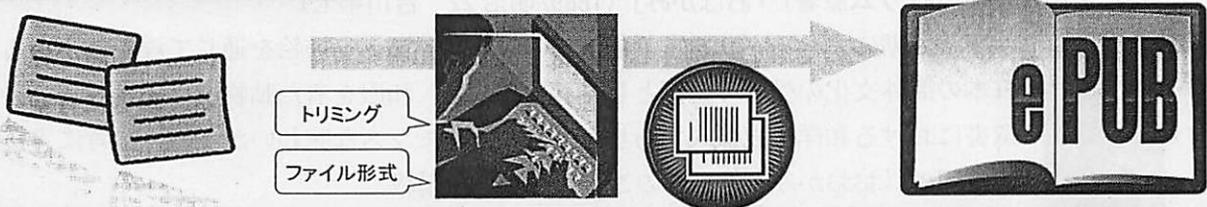
② 権利処理

対象資料の著作権を処理。



③ 電子書籍の制作

著作権処理の済んだ資料を電子書籍化。



④ 電子書籍の配信

実際の電子書店を通じて配信。



⑤ 利用状況等の評価

一般ユーザの評価を検討。



将来、民間事業者や公的機関等が、既存のデジタル化資料を基に、新たに電子書籍を作成・配信する場合のガイドを作成。

文化庁 eBooks プロジェクト 配信対象資料について

【第1回配信予定資料 (7作品)】 平成 25 年 2 月 1 日 (金) 配信

(1) 「絵本江戸紫」(1765/明和 2 浪花禿篋子著・石川豊信画)



国立国会図書館所蔵資料でありアクセス数の高いデジタル化資料。江戸中期の女性生活文化を紹介した書籍の上中下巻を収録。女性のファッションとともに、当時の道徳観を窺い知ることのできる資料であり、石川豊信の手による画も貴重。

(2) 「平治物語〔絵巻〕」(第一軸：三条殿焼討巻)(1798/寛政 10 住吉内記写)

国立国会図書館所蔵の貴重な古典籍資料でありアクセス数の高いデジタル化資料。本プロジェクトでは、平治の乱の顛末を描いた軍記物語の絵巻物のうちの1巻を電子書籍化。絵巻物の特性を活かして、実物そのものを読むように途切れることなくスクロール型とした。



(3) 上田萬年訳(グリム原著)「おほかみ」(1889/明治 22 吉川半七)



明治中期におけるグリム童話翻訳初期の作品、文体や挿絵を通じて浮かび上がる日本の海外文化の受容の一例として貴重な文献。和服を着た動物の挿絵は当時の児童書における和洋折衷様式であり、独特でユーモラスな味わいがある。参考に青空文庫版の「おおかみと七ひきのこどもやぎ」を掲載。

(4) 竹久夢二「コドモのスケッチ帖 動物園にて」(1912/明治 45 洛陽堂)

大正ロマンの代表的存在であり、今なお人気を誇る画家・詩人の竹久夢二が子供向けに描いた作品。本プロジェクトでは国立国会図書館デジタル化資料からの挿絵と青空文庫からのテキスト部分を組み込むハイブリッド型を試み、読みやすさと原書の良さを融合。見開きごとに動物のスケッチと対話や詩などの短文の組み合わせで25種類の動物を描く。コドモの心を持ち続ける詩情豊かな夢二独特の世界観があふれ、大人が今読んで新しい。



(5) 芥川龍之介「羅生門」(1917/大正 6 阿蘭陀書房)



多くの教科書に採用され、誰しも一度は読んだことのある国民的名作。本プロジェクトで配信する初版では、あまりにも有名な「下人の行方は、誰も知らない」と結ぶ末尾の文章が異なる文章となっている。読み比べできるように、新字新仮名による「羅生門」を青空文庫から掲載。初版当時の書籍の感触を感じつつ、末尾の一文によって異なる読後感を味わっていただきたい。

[現代日本文学の翻訳・普及事業第1回対象作品：芥川龍之介短編集所収]

(6) 芥川龍之介「河童」(1927/昭和2 直筆原稿)



貴重図書として国立国会図書館に所蔵される芥川龍之介の直筆原稿「河童」。同館デジタル化資料としてネット上でも公開されているが、本プロジェクトの試みでは解読の補助となるように原稿と青空文庫のテキストを併載。活字となる以前、推敲に推敲を重ねる芥川独特の筆跡から魂の叫びを辿っていただきたい。

(7) 酒井潔「エロエロ草紙」(1930/昭和5 竹酔書房)

昨年2012(平成24)年、5ヶ月連続で国立国会図書館のデジタル化資料におけるアクセス数ランキング1位を記録した戦前の発禁本であり、当時の社会風俗を知る上で貴重な資料。いわゆる「エログロナンセンス」を象徴する書物であるが、今読むといかがわしいというよりはむしろ微笑ましいほどである。



【第2回配信予定資料(6作品)】 平成25年2月8日(金) 配信

(8) 柳田國男「遠野物語」(1910/明治43 自費出版)

2013(平成25)年に没後50年を迎え、著作権保護期間満了となったこともあり、再評価の機運高まる民俗学の父、柳田國男の代表的名著。岩手県遠野町に伝わる口承説話をまとめた特徴ある版組を、350部限定の自費出版の質感そのままにお読みいただきたい。

(9) 夏目漱石「硝子戸の中」(1915/大正4 岩波書店)

漱石の日々の出来事や回想を綴った小品。題名の「硝子戸の中」とは漱石自宅の書斎を指すとされており、現在発行されているテキストの多くは、原稿研究の成果から「がらすどのうち」とルビがふられている。今回配信する初版では新聞連載時と同様に「がらすどのなか」となっている。漱石の思考にとっての「うち/なか」という命題もさることながら、大正期の空気感を、原書そのままの漱石の文章を通してお読みいただきたい。

[現代日本文学の翻訳・普及事業第4回対象作品]

(10) 永井荷風「腕くらべ」(1918/大正7 新橋堂)



「溼東綺譚」と並んで挙げられた、〈現代日本文学の翻訳・普及事業〉の第1回対象作品で、永井荷風の代表作のひとつ。大正モダンの中に、江戸の名残りある東京の一角で生きる芸妓駒代を中心に描く。荷風の真骨頂を、味わいある原書そのままに読むことができる。

[現代日本文学の翻訳・普及事業第1回対象作品]

(11) 宮澤賢治「春と修羅」(1924/大正 13 関根書店)

宮澤賢治が生前唯一刊行した詩集。「わたくしといふ現象は／仮定された有機交流電燈の／ひとつの青い照明です」で始まる序文を開くだけで賢治の圧倒的な世界観に触れることができる。イーハトーブや銀河鉄道などといった賢治独特のモチーフが随所に現れるのも興味深い。本人の手によるこの詩集は賢治の残した詩的世界への最も優れた入口となるだろう。

[現代日本文学の翻訳・普及事業第2回対象作品]

(12) 宮澤賢治「四又の百合：宮澤賢治童話集」(1948/昭和 23 百華苑)

賢治の没後出版された童話集であり、表題作をはじめ、「雁の童子」「十力の金剛石」「二十六夜」など8篇を収める。この他、実弟の清六氏のあとがきに加え、棟方志功による装丁が素晴らしい。特に、賢治と同じく東北出身の棟方の版画による「雨ニモマケズ」からは、その風土から立ち上がる力強さを感じることができる。



[現代日本文学の翻訳・普及事業第2回対象作品]

収録作品：「手紙」「四又の百合」「雁の童子」「學者アラムハラドの見た着物」「龍と詩人」「ひかりの素足」「十力の金剛石」「二十六夜」(8篇)

(13) 「きしゃでんしゃ」(1953/昭和 28 榊トツパン)



「日本ではじめての天然色写真の絵本」である「トツパンの写真絵本」のひとつ。機関車や電車等の乗り物の写真を多数掲載。幼児用の写真絵本であるものの、当時の貴重な写真資料であり、巻末には写真一点毎に鷹司平通氏(交通博物館員)の解説が付されている。国立国会図書館のデジタル化資料で判別が難しい文章部分は、新たにテキスト入力を行った。